

世界大学生平和サミット声明

われわれ、「世界大学生平和サミット」の参加者は、平和の価値とわれわれ未来の平和への展望をわかちあうために、ここ京都に参集した。

たくさんの貴重な、何の罪もない命が奪われた第2次世界大戦が終わって、半世紀が経った。この悲劇の結果として、人々は揺るぎのない平和を求めたが、この願いはなお適えられていない。

冷戦の終結とともに、新たな問題が浮上してきた。平和の概念は単に「戦争のない状態」を意味しない。それは、「貧困・飢餓・社会的差別・文化的無理解・環境破壊のような構造的暴力のない状態」をも意味する。これらの諸問題の解決は、国家間、一国政府あるいは非政府組織などのレベルで取り組まれてきたが、平和は依然として探求の途上にある。

われわれは、世界平和を支持する人間は、以下のことに取り組む責務があることを宣言する。

- ・人間社会相互間の理解を深め、互いに尊重しあうこと。
- ・教育とコミュニケーションを通じて無知とたたかうこと。
- ・あらゆる形態の差別を根絶すること。
- ・未来を創造するために世界の若者が果たす役割の重要性を強調すること。
- ・あらゆるレベルでの暴力を維持し、永続化させるような態度を確実に改めること。
- ・積極的な変革に向けて、われわれ自身とわれわれのアイデアを積極的に動員すること。
- ・われわれが依存し、われわれ自身その一部でもある環境を保全し、さらに改善すること。
- ・あらゆる人々の持続可能なライフスタイルを犠牲にして、少数の人々の物質的な富を増大させるよりはむしろ、精神的・知的価値を育むこと。
- ・個々の国家の尊厳について国際的に協力すること。
- ・人権を広く尊重する体制を追及すること。
- ・民主主義を有効に機能させるためにも必要な人権を実現するために、教育の重要性を認識すること。
- ・人権には、住居・雇用・保険・開かれた討論・識字および個人の自由などが包括的に含まれることを認めること。
- ・国家からの草の根のレベルに至るまで、人々の参加を進めること。
- ・国連安全保障理事会を民主化すること。
- ・少数の富裕層と多数の貧困層の不均衡を増大させる原因となる過剰な消費主義に疑問を

参考資料②

呈すること。

- ・人間の発達のためのイニシャチブを優先すること。
- ・科学・技術を人間の福祉のために適用し、発展させること。
- ・援助計画は、旧来のひもつき援助が開発的であったことを認識し、今後の援助は、双方の為になる真に均衡のとれたものであるべきことを要求すること。
- ・「全地球化」が単に「西欧化」を意味するものではないことを認識するために活動すること。
- ・政府の軍事支出を平和のための努力に振り向けさせること。
- ・生物兵器、化学兵器および核兵器の生産と維持体制を廃絶すること。
- ・銃の保有に対する規制を強化すること。

私たちは、平和サミットが必要とされなくなる日が到来することを心から願う。

平和が私たちの究極の目標であるならば、私たちはその達成に向けて積極的な役割を果たさなければならない。

1995年12月6日・京都